

賛同をお願いします

2023年11・19労働者集会 改憲阻止！1万人大行進

「11月労働者集会」3労組共同アピール2023に賛同を

●労働運動の刷新へ議論と行動を

私たちは11月19日、東京・日比谷野外音楽堂で全国総決起集会・1万人大行進を呼びかけます。多くの仲間がこの闘いに加わって下さることを願っています。ぜひとも多くの皆様の賛同と参加をお願いします。共に討議し、様々な行動を組織し、変革に向けた計画をつくりあげよう。

●東アジアの大軍拡と戦争準備

ウクライナ戦争で世界は一変し、タガが外れたように世界中で大軍拡が叫ばれ、恐怖と憎悪、拳国一致が時代の精神になるうとしています。東アジアでは「台湾有事」をふりかざした中国侵略戦争の危機が急速に高まり、岸田政権は、米バイデン政権と手を結び、歴史的な大軍拡に踏み出しました。

●自民党と一体化する連合

戦争によってもたらされた激しいインフレ危機に対し世界中でストライキや労組結成の大波が起きています。しかし連合は自民党や財界と癒着し、23春闘でもナショナルセンターの役割を放棄し一切動かず、その結果もたらされたのは格差・貧困のさらなる拡大と、先進国で最低水準の賃金の固定化でした。今こそ労働運動を刷新しなければなりません。

●11月労働者集会の4つの課題

第1に、関西生コン労組への弾圧など「労組なき社会化」攻撃を粉砕するために全国の力を結集しよう。第2に、新自由主義を終わらせるために立ち上ろう、その鍵を握っているのは労働組合です。第3に、労働組合の最も重要な任務は戦争反対です。第4に、国境を超えた労働者の国際連帯闘争の発展です。

名称 11・19全国労働者総決起集会

日時 改憲・戦争阻止！1万人大行進
11月19日(日) 正午～

場所 東京・日比谷野外音楽堂

呼びかけ 全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部

全国金属機械労働組合港合同

国鉄千葉動力車労働組合

事務局 千葉市中央区要町2-18 DCC会館

Tel 043(222)7207

FAX 043(224)7197

2023年11・19労働者集会／改憲阻止！1万人大行進に賛同します

組合・団体名か個人名をお願いします。個人の場合は組合・職場・役職等をお願いします。

(公表可・不可)

連絡先(資料等の送付先)

電話

メール

賛同金 個人(500円)

円 / 団体(1000円)

円

メッセージをお願いします

11月労働者集会とは ―闘う労働組合の全国ネットワークを！

この集会は「闘う労働組合の全国ネットワークをつくろう」と訴えて年に1度開催され、今年で26回目を迎えます。

最初のきっかけは、1998年5月に国鉄1047名解雇撤回闘争に対する「JRには民営化に伴う解雇の法的責任は及ばない」の反動判決でした。国鉄分割・民営化は20万人が職場を追われた戦後最大の労組破壊の攻撃でした。それなのにその責任はJRには及ばない。

これでは解雇も不当労働行為もやりたい放題になるとの危機感が関西生コン支部、港合同、動労千葉の3つの労働組合を結びつけ、共同の呼びかけで集会が始まったのです。

産業別労働組合として画期的な運動を展開してきた関西生コン支部に対して、ストライキやコンプライアンス活動などを違法とし89人を逮捕する戦後最大規模の労組弾圧が加えられています。しかし3月6日の大阪高裁判決（和歌山事件）では、元暴力団員を差し向けたことは



団結権の侵害であり、関西生コン支部は産業別労組として憲法28条や労組法が適用されるとの判決を出しました。反転攻勢が始まりました。全国の方で労組弾圧を打ち破ろう。

また2003年の動労千葉のイラク戦争反対ストライキをきっかけに集会は労働組合の国際連帯が発展しました。今年も国際連帯の開始から20年で、韓国・民主労総ソウル地域本部をはじめ世界中から労組代表団を迎えて記念事業も予定しています。

新自由主義攻撃と3労組

私たち3労組の原点は1980年代にあります。国鉄分割・民営化を契機に社会をのみ込んでいった新自由主義攻撃が私たちを結びつけたのです。日本の労働運動はとめどなく後退していきました。3労組はその渦中で強力な団結を形成していきました。そこに共通点があります。

関西生コン支部

全日建運輸連帯労組関西地区生コン支部は、現在の大弾圧につながる激しい弾圧・不当逮捕攻撃を受けながら、「資本主義の根幹を揺るがす運動だ。箱根の山を越させてはならない」と、当時の日経連会長に言わしめるような画期的な産業別労働運動をつくりあげました。それは新自由主義的競争原理と真正面から対決する闘いでした。

港合同

全国金属機械労組・港合同は、1978～87年の苦節10年にわたる闘いによって、自己破産・全員解雇・破産法攻撃を突破して田中機械争議に勝利しました。その闘いは、日本の労働争議史に残る画期的地平です。しかもその闘いの中から、地域を一つの労働組合として組織し、勝利する中小労働運動の新たな地平を確立したのです。

動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合は、戦後最大の労組解体攻撃として生まれた国鉄分割・民営化攻撃と対決し、二波のストライキに立ち上がり、40名もの不当解雇攻撃を受けながら団結を守りぬき、その後も国鉄1047名解雇撤回闘争や、JRにおける外注化阻止闘争や「労組なき社会」化攻撃と対決して闘いを牽引しています。